

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第5区分
 【発行日】平成19年5月10日(2007.5.10)

【公開番号】特開2003-3340(P2003-3340A)
 【公開日】平成15年1月8日(2003.1.8)
 【出願番号】特願2001-185329(P2001-185329)
 【国際特許分類】

D 0 2 G 1/16 (2006.01)
B 6 0 R 21/16 (2006.01)
D 0 2 G 3/44 (2006.01)
D 0 3 D 1/02 (2006.01)

【F I】

D 0 2 G 1/16
 B 6 0 R 21/16
 D 0 2 G 3/44
 D 0 3 D 1/02

【手続補正書】

【提出日】平成19年3月14日(2007.3.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項1】強度が7 c N / d t e x 以上、かつ単糸繊維度が3. 3 d t e x 以下のポリアミドマルチフィラメントであり、カバーファクターが2100以上の高密度織物用ポリアミドマルチフィラメントであって、原糸の交絡度が10～30個/mであることを特徴とするポリアミドマルチフィラメントヤーン。

カバーファクター = $\sqrt{(\text{経糸繊維度 d t e x}) \times (\text{経糸密度 本} / \underline{2.54\text{cm}})} + \sqrt{(\text{緯糸繊維度 d t e x}) \times (\text{緯糸密度 本} / \underline{2.54\text{cm}})}$

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するための手段、即ち本発明の第1は、強度が7 c N / d t e x 以上、かつ単糸繊維度が3. 3 d t e x 以下のポリアミドマルチフィラメントであり、カバーファクターが2100以上の高密度織物用ポリアミドマルチフィラメントであって、原糸の交絡度が10～30個/mであることを特徴とするポリアミドマルチフィラメントヤーンであり、カバーファクター = $\sqrt{(\text{経糸繊維度 d t e x}) \times (\text{経糸密度 本} / \underline{2.54\text{cm}})} + \sqrt{(\text{緯糸繊維度 d t e x}) \times (\text{緯糸密度 本} / \underline{2.54\text{cm}})}$

その第2は、ポリアミドがナイロン6・6である請求項1記載のポリアミドマルチフィラメントヤーンであり、その第3は、強度が8 c N / d t e x 以上である請求項1または2に記載のポリアミドマルチフィラメントヤーンであり、その第4は、原糸の交絡度が10～25個/mである請求項1乃至3のいずれかに記載のポリアミドマルチフィラメントヤーンであり、その第5は、残存交絡度指数が20以下である請求項1乃至4のいずれかに記載のポリアミドマルチフィラメントヤーンであり、その第6は、高密度織物がエアバッグ用である請求項1乃至5のいずれかに記載のポリアミドマルチフィラメントヤーンであり

、高密度織物がウォータージェットルームで織られたものである請求項1乃至6のいずれかに記載のポリアミドマルチフィラメントヤーンである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

【発明実施の形態】以下に本発明の詳細について説明する。本発明におけるポリアミドとはポリアミド6、ポリアミド6・6、ポリアミド4・6等のポリアミド類、あるいは共重合ポリアミド等である。これらのポリアミドからなる繊維であり原糸強度が 7 cN/dtex 以上、単糸繊維度が 3.3 dtex 以下の低単糸繊維度マルチフィラメントを使用した高密度織物でカバーファクター（経織密度（本/ 2.54cm ） $\times$ （経糸繊維度（ dtex ）） $^{(1/2)}$ ） $+$ 緯織密度（本/ 2.54cm ） $\times$ （経糸繊維度（ dtex ）） $^{(1/2)}$ ）が2100以上の高密度織物に関するものである。このような織物では通常、経糸は整経工程で整経、あるいはビーミング等を得て調整され織機に掛けられる。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

実施例1～3、比較例1～2

硫酸粘度 3.3 のポリアミド66を熔融紡糸し紡糸後、最大 195°C の加熱ローラを使いローラ群により多段直接延伸し、 $350\text{ dtex}-108$ フィラメントで強度 8.4cN/dTex 、沸水収縮率 9% のマルチフィラメントを巻取りパッケージとした。経糸このマルチフィラメントを整経、ビーミングした。このビームを使い緯糸には同じパッケージをウォータージェットルームで 580 回/分にて平織り製織した。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

【表 2】

	実施例4	実施例5	実施例6	比較例4	比較例5	比較例6
織度 dtex	350	350	350	350	350	350
フィラメント数	144	144	144	144	144	144
単糸織度 dtex	2.43	2.43	2.43	2.43	2.43	2.43
原糸強度 cN/dtex	8.4	8.4	8.3	6.7	8.4	8.3
原糸交絡度 ヶ/m	12	20	25	36	7	34
経密度／緯密度 本/2.54cm	60/60	60/60	60/60	58/58	60/60	60/60
カバーファクター	2245	2245	2245	2170	2245	2245
基布経引張強力 N/cm	640	644	623	503	641	563
強力利用率 %	92.2	92.7	90.3	93.9	92.2	82.0
基布解反糸の残存交絡指数	3.8	7.8	13.5	23.3	1.3	21.1
製織性	○	○	○	○	×	○